

(様式 5-1)

地域重点施策推進事業事後評価調書(令和3年度実施分)

地域振興局名

北秋田地域振興局

(振興局調整費)

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
市村を越えた移住者の連携による活動支援事業	総務企画部	高橋公康	地域企画課	企画・観光振興班	0186-62-1251	・移住者(地域おこし協力隊員を含む)には、特定の技能を身に付け地域活動に意欲を持つ者がいる。しかし、その活動範囲は所属する市村の範囲内にとどまっており、またその活動内容を地域住民に知られる機会は少ない。 ・市村を超えた移住者同士の連携を促すことによりその活動の輪が広がり、またその活動に地域住民が接することで、地元の魅力の再発見につながり、地域全体の活力が生まれることが期待できる。 ・このため、管内市村の移住者について情報共有を図りながら、市村の枠を超えた移住者同士が連携した、北秋田地域の魅力の再発掘のための取組を支援し、地域活性化の芽だしとする。	53,438	パティンエに教わるスイーツづくり教室(計3回) ①日程: R3.4.10 場所: 大館市立比内公民館 企画: 地域おこし協力隊3名(大館市、北秋田市、上小阿仁村) 参加者: 13名 ②日程: R3.6.12 場所: 鹿角市文化の杜交流館 コモッセ 企画: 地域おこし協力隊4名(大館市、北秋田市、上小阿仁村、鹿角市) 参加者: 20名 ③日程: R3.12.11 場所: 北秋田市民交流プラザコムコム 企画: 地域おこし協力隊4名(大館市、北秋田市、上小阿仁村、鹿角市) 参加者: 17名	県	移住者及び地域住民	令和3年4月5日	・地域おこし協力隊主催のイベントにより、市村の枠を超えた移住者間交流や移住者と地域住民等延べ50名の参加者の交流が図られた。 ・協力隊主催者4名が連携して、食を通して地域の垣根を越えた人と人とのつながりづくりのためのイベントを企画する団体「Coks(コックス)」を立ち上げた。	・移住者の定住意欲の喚起と地域活動への参画の更なる促進に向けて、団体「Coks(コックス)」が中心となり、移住者同士、又は移住者と地域住民の交流活動が展開されることが期待される。
											令和4年5月20日		

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
依存症当事者と家族の支援体制の構築	大館福祉環境部	相澤 寛	企画福祉課	調整・障害者班	0186-52-3955	依存症からの回復には医療の関わりだけでは解決されないことが多く、関係者が病気の特性や関わり方を理解し、相談支援の継続や自助グループへの参加など息の長い支援をしていくことが重要である。 地域における依存症関連問題の解決に向け、関係機関の連携や相談支援者の資質向上、依存症当事者の回復に向けた自助グループの創出など、依存症当事者や家族の支援体制づくりを進めていく必要がある。	117,596	①依存症相談支援担当者会議 開催日：R3.7.30 内容：県・保健所の取組報告、各機関からの取組状況報告・情報共有・意見交換、自助グループからの活動紹介 ②依存症相談支援担当者研修会 新型コロナウイルス感染拡大のため中止 ③依存症当事者・支援者のグループミーティング 【1回目】 ・開催日：R3.10.29 ・参加者：4人(支援者のみ) ・内容：自助グループの活動紹介、当事者の体験を共有、支援者の思いを共有 【2回目】 新型コロナウイルス感染拡大のため中止 ④保健所職員の研修会・自助グループへの参加 【研修会】キャンブル依存症セミナー／依存症支援スキルアップ研修会／全国保健所長会アルコール依存症ウェブ講演会他 【自助グループ】秋田県中央断酒会／AA千秋グループ／北秋田アディクション問題を考える会	県	管内の依存症当事者、家族、支援者	令和3年7月12日 令和4年5月20日	①依存症相談支援担当者会議初めての開催であったが、管内における各機関の相談状況、依存症当事者と家族の抱える悩みごと等の現状を確認し、今後の参考とした。また、当事者で自助グループで活動している方から、自助グループのことや自身の体験を語っていた。支援者にとっては貴重な機会、とても勉強になったという声や、もっと当事者の声を聞きたいという意見が多かった。 ②依存症当事者・支援者のグループミーティング 当事者の参加は無く、支援者のみの参加だったが、少人数でのミーティングのため、参加者からの質問や普段の関わりの中で抱えている思いを素直に話してもらえたという印象であった。秋田魁新報社の取材もあり、後日記事が掲載された。 ③保健所職員の研修会・自助グループへの参加 さまざまな研修会に参加し、依存症を取り巻く現状や、支援者として理解しておくべきことを学ぶことが出来た。自助グループでは、回復した当事者に出会える貴重な機会、当事者から聞いた内容は毎回参考になることが多かった。自分自身の支援について相談したり、悩んでいることをその場で共有することで支援者としてのモチベーションを保つ機会にもなった。	コロナ禍において、依存症問題は増加、依存症問題への関心は高まっていると感じている。 当保健所では、依存症に関する事業は初めての取組であり、他管内の保健所での取組状況を参考とした。新型コロナウイルスの感染拡大により、当初予定を達成できなかったが、地域で依存症患者や家族を支えている複数の自助グループに参加し、当事者や家族の声を聞いたことは貴重な経験となった。 以上のことから、次年度も感染状況を考慮して、可能な限り当事者や支援者が集う機会を作ることに継続して取り組んでいく。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
「世界遺産登録記念！伊勢堂岱遺跡オリジナルのぼり旗をつくろう！！」事業	総務企画部	高橋公康	地域企画課	企画・観光振興班	0186-62-1251	世界文化遺産登録となった伊勢堂岱遺跡を地域全体で盛り上げるため、管内小学校による伊勢堂岱遺跡オリジナルのぼり旗製作を通じて、家庭・地域の興味と関心を引き、盛り上がりの気運を醸成する。また、のぼり旗の活用を通じ、伊勢堂岱遺跡の認知度を高めるとともに、遺跡を核とした誘客促進と周辺地域への波及効果拡大を図る。	268,590	・大館・北秋田地域の小学校等の協力により、世界遺産に登録されたことを祝うものと、伊勢堂岱遺跡の魅力などを紹介した川柳が書かれたものの2種類ののぼり旗を計52枚製作 ・各小学校で製作したのぼり旗を展示	県	管内の小学校児童	令和3年10月25日	製作した「オリジナルのぼり旗」のお披露目がテレビニュース等で取り上げられたほか、首都圏観光PRイベントでの活用により、県内外へ向けて伊勢堂岱遺跡をPRした。	・小学校に製作を依頼することで、製作過程において家庭・地域の興味と関心を引く取組ができた。製作したのぼり旗を活用し、伊勢堂岱遺跡の認知度を高めるための発信を継続していく必要がある。
											令和4年5月20日		
農産物利用が多い“ふるさと納税返礼品”を活用した世界文化遺産「伊勢堂岱遺跡」の情報発信事業	農林部	齊藤英樹	農業振興普及課	企画・振興班	0186-62-3950	北秋田市に位置する伊勢堂岱遺跡は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として令和3年7月に世界文化遺産に登録され、これまで以上に文化的重要性や、その魅力を多方面に発信していく必要があった。 農林部では、北秋田市ふるさと納税の返礼品件数の約90%が農産物であることに着目し、返礼品を通して「伊勢堂岱遺跡」を広くPRするとともに、現地訪問の足がかりとする。	158,400	①返礼品添付シールを制作・シールサイズ、デザイン及び掲載情報内容を利害関係者と共に検討。 ・伊勢堂岱遺跡のウェブサイトへリンクできるQRコードを添付。 ②制作枚数 ・40,000枚(R3.4～11までの北秋田市返礼品件数を参考) ③北秋田市ふるさと納税品への添付及び送付 ・北秋田市4事業者(米生産者)に添付を依頼。	県	ふるさと納税返礼品事業者	令和3年10月25日	・R3.12.22にシールを配付し順次添付を開始したところ、1月のHPアクセス数が通常より3万アクセスほど増加した。1日当たりアクセス数で見ると配布前より約20%増加している。 ・目的の一つである伊勢堂岱遺跡HPへの誘導、アクセス回数の増加に対し一定の効果があつたと考えられる。	・シールの制作及び添付には、北秋田市教育委員会や北秋田市総合政策課、事業者(米生産者)など、様々な関係者との協力により、地域一体となった遺跡のPRIに取り組むことができた。 ・取組内容が報道機関で紹介されたこともあり、地元商工会や教育委員会、観光業者が「伊勢堂岱遺跡」を地域資源としてPRするモデルケースとなったと考えている。
											令和4年5月20日		